

# PPBSを越えて

遠藤貞一

## まえがき

今やすべてのものは、システム的にしか考えられなくなり、すべては地球システムという1つの終点に結びつかざるを得なくなった。こゝに必然的に「システム・ターミナル」という考え方が発想されることになった。これは我々の開拓の対象であり、行動の指標でもある。

こゝでPPBSは一国が、その世界政策と、国内政策を決定する、国家組織としての運営の基礎とすれば、それは更に地球システムとしてのレベルに止揚されねばならない。

且つこのレベルに於ては、単に効率的な予算編成の手法の外に、現代の科学に於て最先端を行く、地球上の生物共存態としてのエコロジーをふまえた、新らしい「行動科学 Praxeology」との融合において捉らえなければならない。

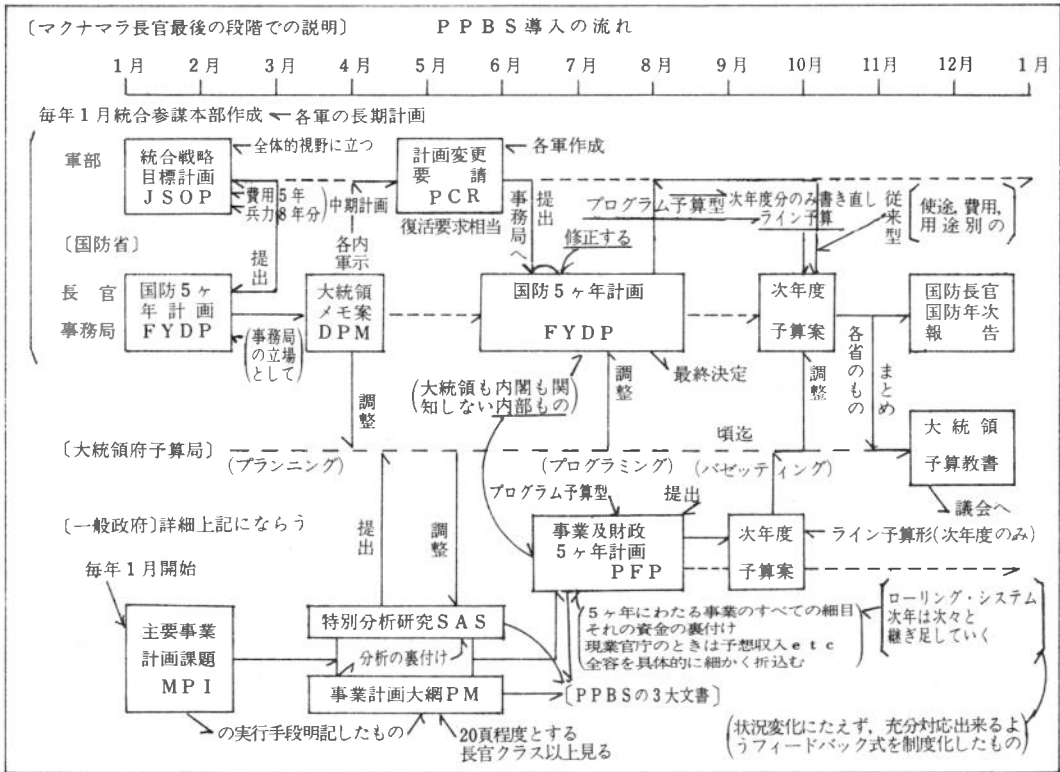
以上を自然科学と人文科学との直積集合としてこれをシステム化することがその「システム・ターミナル」として捉えねばならぬ要素として考えられる。そしてこれは、清潔な自己循環による安定した遊星としての人類の開発に連なるものであると考えられる。

こゝではこの三要素の要約とその融合の概然的な1つの思考形態の一端について述べる。

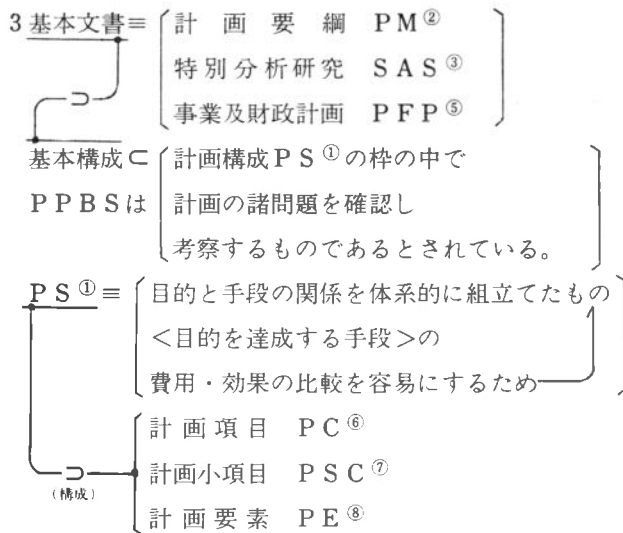
そしてこゝではその表現を簡明化するためにSS記法をとり入れる。

## 1. 米国におけるPPBSの流れ

米国におけるPPBSの流れは、マクナマラ長官最後の段階で説明しても、現在のニクソン時代の流れとその基本においては、大差はないと考えられる。



この流れに沿って出て来る基本文書は次の通りである。



PM<sup>②</sup> ≡ 省庁の長の進言と理由をまとめた年度予算要求書類

〔費用×効果分析の要約をまとめたもの(1件20頁以内)〕  
〔主要プログラム課題≡MPI<sup>④</sup>について〕

SAS<sup>③</sup> ≡ <MPI<sup>④</sup>の決定, 課題解決のための基礎的な分析研究>

<省庁の長や, 予算局に, 目的達成の方策選択の情報を提供するもので, 様式, 長さ自由。>

PFP<sup>⑤</sup> ≡ <省庁のプログラムの多年度包括の一覧表>

〔<のすべてのプログラムのアウトプット, 費用, 所要資金を明示したもの。>〕

<前年度, 現年度, 予算要求年度, 4ヶ年~7ヶ年>

〔計画期間に対する計数は将来の新予算規模  
過古, 現在の将来に影響あるもののみ。〕

PC<sup>⑥</sup> ≡ 〔目標, 目的段階での構成で高次の主要使命と  
活動規模を検討解決するための適切な枠組み〕

(1つの省に5~10件程度作られる。)

PSC<sup>⑦</sup> ≡ 〔PCの意味のある実質的分割で, 類似性の  
アウトプットのPE<sup>⑧</sup>をまとめたもの。〕

PE<sup>⑧</sup> ≡ <PS<sup>①</sup>(=プログラム体系)の基本的な構築単位>

〔<アウトプットの生産に直接関連の省庁活動>〕

- a, 明確に定義出来るアウトプットで可能な限り数量化される
- b, 可能な限りの最終生産物≡他の要素を支える中間生産物
- c, インプットは比例的でなくとも, アウトプットで変化する

<PSは固定的でなく, 絶えず検討, 修正されるもの>

〔他部局の所管でも, 歳出予算項目が異っても, 同一  
アウトプットに貢献すれば, 1つにまとめられる。〕

## 2. 行動科学 Praxeology

行動科学 ⊃ 展望と限界 (←現時点)

↳ 基礎論 (数学的展開)

行動決定の中心的テーマは <基準> の設定である。

決定のアルゴリズムとは, どんな <基準> を設定したかに益きる。

すべての問題はなぜそのような <基準> を選ぶかの間に発する。

〔完全順序ベクトル束でなければ, <完全決定> は出来ない。〕

↳ 〔集合論, グラフ理論, 選好グラフ, 選考理論, 目的関数, 決定の法則, 束  
とベクトル空間, 最適解を求める目的関数の一価性, 行動の範囲, ……〕

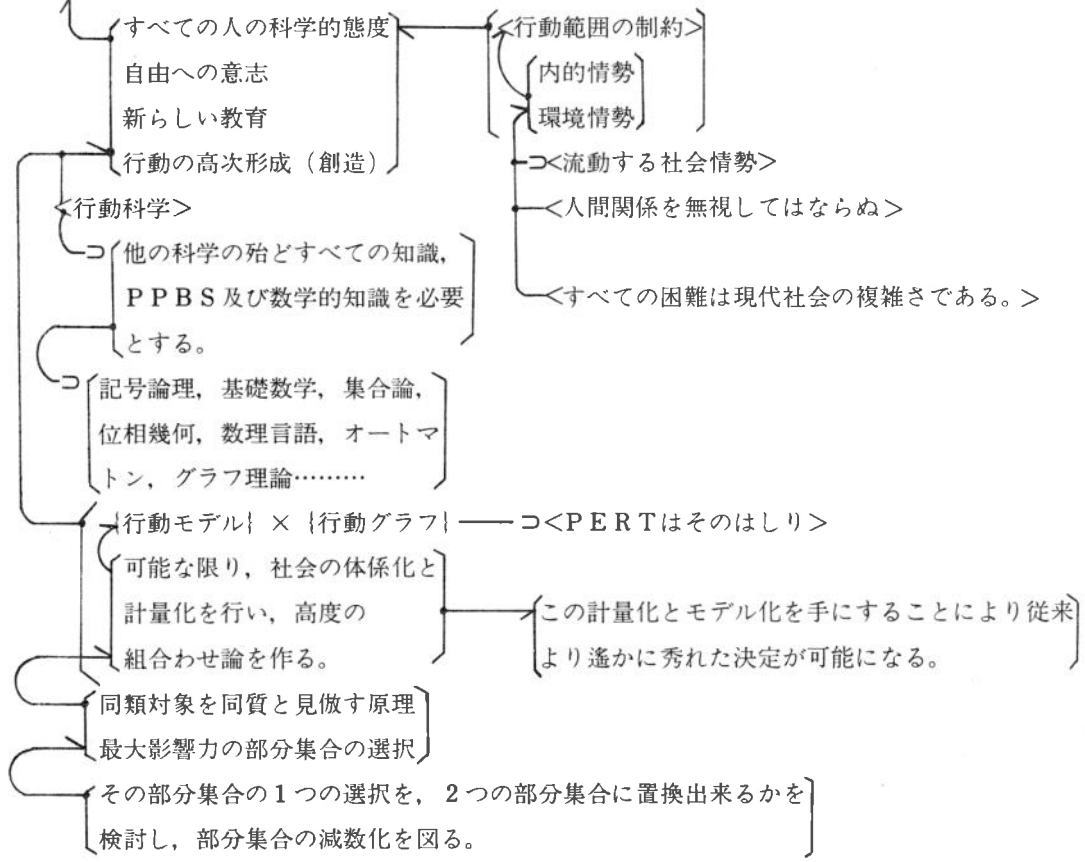
各論

- 最適方策の探求 (計画モデルの最適化)
- 偶然を扱う (数学的期待値の利用と誤用, 偶然を作る)
- 不確定性を扱う (不確定性と, 情報, 基準の選択, ……)
- 逐次決定プロセス (経験, シミュレーション学習……)

★ もう1段高次の基準設定 (直感, 経験, 社会的, 心理的, 道徳的要素……) >

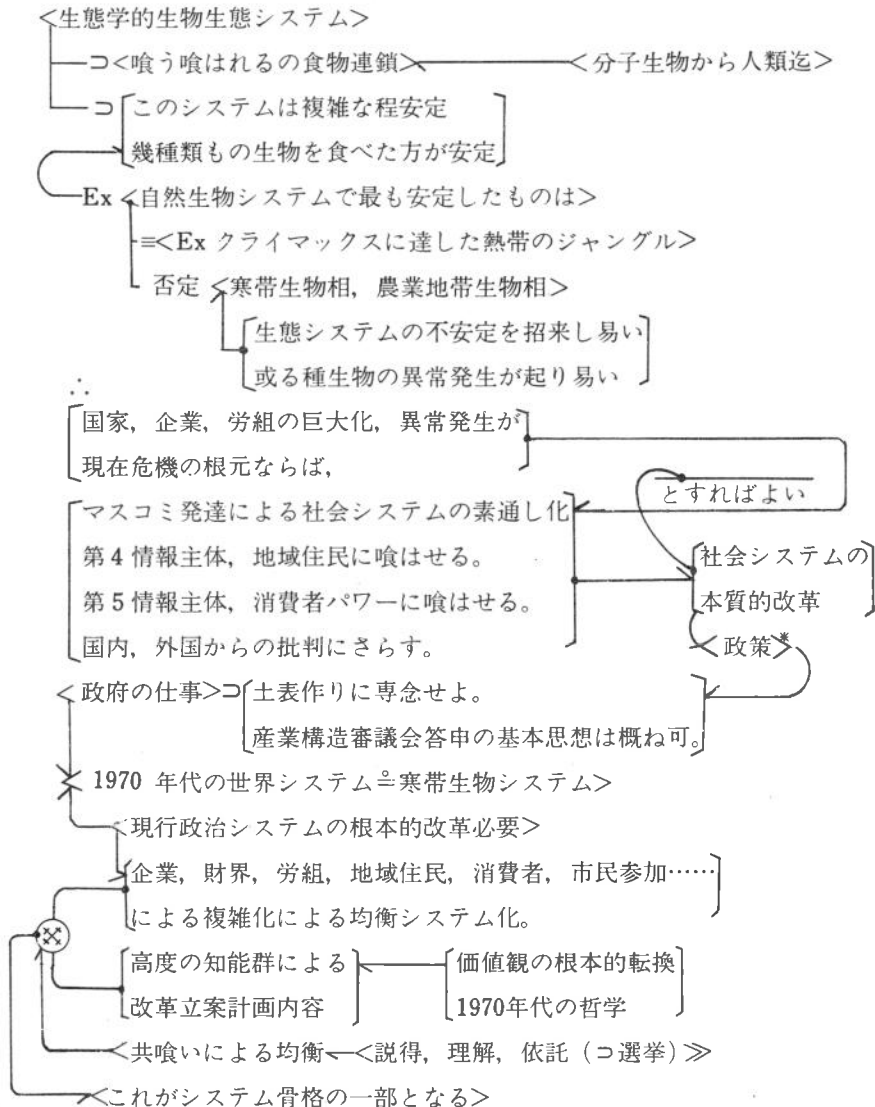
へ進む。

<真の決定へ進む>



### 3. エコロジカル・システムの内部構築

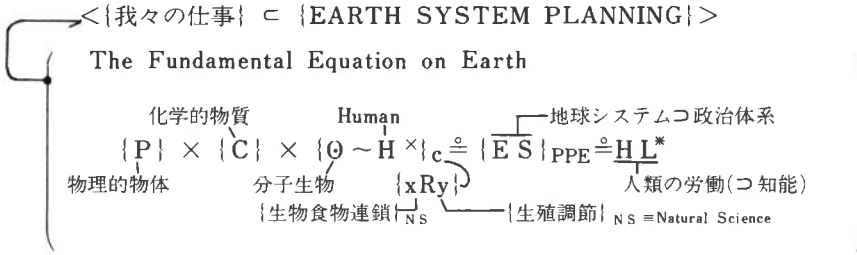
この世界システムを構築する場合には、その基礎として、エコロジカル・システムをその骨格に構築しなければならない。



注, A ※ Bは高次元において協力, 低次元において戦う自己レベルアップの関係。

#### 4. 地球システムの1面の素描

我々の仕事は地球システム・プランニングの部分集合と考えることが出来る。



$$\{PPBS \times Praxeology \times Ecology\} \equiv PPE$$

こゝで強調\*がつけられた中でHL\*はかゝるシステムは、人類の労働と努力でしか、決して開発されて来ないということである。こゝに人類の最も究極的な人生の目的が存在し、こゝに神の仕事が存在することを示すものである。

注：A ~ B の~は連絡線で長短，斜，彎曲，自由。A ⊃ B はAはBを含む。

A → B はA先考してからB後考。 A ← B はAは主体で，Bはその条件。

A ※ B はAとBは高次元で協力，低次元で戦い，全体をレベルアップする。

A ≐ B AとBは同一カテゴリーにおいて相等しい。